

第9回友の会ウィーク

11月4日(土)から同23日(木・祝)まで開催
絵本の読み聞かせ、朗読や劇、DVD映画やCDコンサートなど
19日(日)市川真人氏の特別講演会

今年で第9回目を迎える「友の会ウィーク」を開催します。8月5日(土)午後、中央図書館で説明会が開かれました。期間中は友の会会員、会員の所属する活動団体、友の会の各委員会によるイベントが週末を中心に行われます。説明会では絵本の読み聞かせ、紙芝居やマジック、物語の朗読や劇、楽器演奏などを披露する8団体が参加を表明、日時・場所を調整してスケジュールを決定しました。さらにウィーク開催に向けて結成された友の会実行委員会主催の特別講演会や映像文学館、友の会の委員会による2回にわたるナイトシアターのDVD上映やCDコンサートなどが加わります。また展示コーナーを利用して参加団体や友の会の紹介やこの1年間の活動の成果を披露します。



市川真人氏 (撮影:牧野智晃)

11月19日(日)午後に行う特別講演会にはTBS番組の「王様のブランチ」に登場されていた文芸評論家で、「早稲田文学」編集主幹の市川真人(いちかわ・まこと)氏をお迎えしています。また「黒いオルフェ」や今年で生誕150年を迎えた夏目漱石に関するDVDの上映も予定しています。中央図書館の「おはなしのへや」や会議室1・2を会場とした「友の会ウィーク」の内容・詳細については10月中旬に総合プログラムを発行しますので、ご期待下さい。

第9回 友の会ウィーク

図書館からひろがる!ひろげる!

2017年
期間 11月4日(土)~11月23日(木・祝)
場所 葛飾区立中央図書館

11/19(日) 特別講演会「いまここ(だ)から(こそ)の読書」
市川真人さん 文芸批評家・早稲田大学文学部教授

主催: 葛飾図書館友の会
http://www.katsutomo.jp/mo/ 協力: 葛飾区立中央図書館
お問い合わせ: 中央図書館事業推進係(友の会担当) 電話: 03-3607-9201

よみがえる!!【友の会情報コーナー】

中央図書館オープン時に、受付の横のスペースに葛飾区のニュースや歴史を中心に所蔵図書や資料を解説展示するコーナーが友の会のために設けられ、【スクラップブック『葛飾ニュース情報』】という名称でスタートしました。長い間、主要新聞の葛飾関連記事の切り抜きなどが収集され、関連資料や書籍が展示されてきましたが、担当委員会が解散したため葛飾関連の作家、資料などが展示されてきました。

今回新しい担当者が「地域資料とトピック」をテーマに活動することになりました。会員の方はふるってご参加ください。現在は人気の『将棋』に関する資料が展示されています。10月~11月は『葛飾ふうてんマラソン』と『葛飾文学賞』をテーマとして展示される予定です。



「さよならリサイクル市」を目指して

まだまだ続く除籍済み本の処理作業



9月末に60年の歴史をもった新宿図書センター（旧葛飾図書館）の休館にともなう除籍本のリサイクル作業が、7月からスタートしました。

参加する会員は受付で名簿に記入してから図書センターの2階の保存庫に入り、オレンジ色の友の会のエプロンを着用して作業を開始します。区内図書館から送られてきた大小各種の除籍本の奥付付近に「除籍処理済み」の赤いスタンプを押し、リサイクル処理済みと印刷された緑のシールをバーコードの上に貼るという作業に加え、必ず本に貼付されているICタグを探し、露出しているものは絵の具の筆で剥離剤を塗り、剥がしてやっと完成です。しかし

ICタグの除去がとても“難儀”で、タグが爪の間に刺さると…。そしてリサイクル処理した本は入っていた組み立て式のケースに戻し、作業部屋のスペースへ並べたり、積んだりすれば終了ですが、本が重いので、腰を痛めないように注意しながら出来るだけ二人で行っています。

この作業には友の会会員が、休館日以外の開館時間中に都合をつけて行っています(9月末現在延べ約130名)。作業スケジュールは事前に「たんしん」などでお知らせしています。既に相当数の除籍本のリサイクル処理をしましたが、まだまだ処理が必要とのこと。10月以降も継続して行なわれます。これらの本は12月2日(土)から3日間開催される「新宿図書センター さよならリサイクル市」で並べられます。

涼やかな弦楽器特集とヴィオラの生演奏で大絶賛

8月20日(日)の第63回CD・DVDコンサートは「真昼の午後に涼やかな弦楽器の調べを」のタイトルで開催されました。

「タイスの瞑想曲」(マスネ)を皮切りに、「浜辺の歌」(成田為三)「鳥の歌」(カザルス)「二つのヴァイオリンのための協奏曲」(バッハ)や「ディヴェルティメント」(モーツァルト)「メヌエット」(ボッケリーニ)等々、ソロから二重奏、三重奏、四重奏、五重奏、六重奏へと進む選曲が絶妙で、「音にも重み・深みが加わっていくのが楽しめた」と来場者アンケートでも大好評でした。

なお今回は特別企画として第1部と2部の間にプロのヴィオリスト(ヴィオラ演奏家)松崎敦子さんによる演奏があり、更なる盛り上がり。ヴァイオリンよりやや大きめサイズ、人の声に最も近いと言われるヴィオラの低めで知的な響きによる『オンブラ・マイ・フ』『ロンドンデリーの歌』、そしてアンコールの『花は咲く』の生演奏は「こんなにも心に沁み入る音」(来場者アンケート)。またとない体験で、日曜の午後の素敵なプレゼントになりました。



葛飾 友の会 検索

クリックで葛飾図書館友の会HPへ

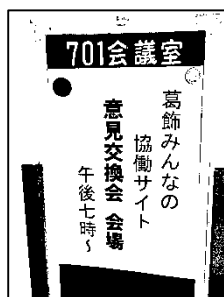
アドレス：katsutomo.jimdo.co

児童サービス応援委員会がウィメンズパルに“出張” 絵本の読み聞かせや手遊びなど日頃の成果を披露



7月29日（土）の午前中、「働くママ・パパ応援講座」が立石のウィメンズパルで開催されました。かつしか区民大学認定講座“夏休みワクワク企画！”のひとつで、主催は男女平等推進センター。10時から始まった子ども講座に友の会の児童サービス応援委員会の会員9名が絵本の読み聞かせ、素話、手遊びなどを披露しました。残念ながら参加した子どもは活発な小学生の男の子2名。ゴザに座った子どもたちは女性会員に囲まれ、会員が読む大型絵本「モチモチの木」や手遊び、詩の朗読や「じごく ごくらく」の遊びなどバラエティーに富んだ1時間のイベントを楽しんだ様子。気軽に会員とも話をするなど、休憩時間も休まず、熱心に過ごしました。明るい素直な態度に会員からも笑い声が起り、終始和やかな雰囲気イベントに。今回は普段行わない朗読や集団遊びも取り入れられ、場数を踏んだ委員の対応による充実した活動になりました。

「葛飾みんなの協働サイト」意見交換会に参加しました。



区内で地域貢献活動している自治町会や区民活動団体、NPO、事業者等が情報発信会員として団体登録し、団体自らが活動内容やイベント、ボランティア募集などの情報をタイムリーで紹介できる葛飾区の協働ホームページについての意見交換会が9月1日（金）夜、区庁舎で開催されました。当会も参加しており随時、情報を更新しています。

現在登録団体は53あり、当日は30名あまりの出席がありました。区側からはサイトへの投稿手順のポイントの説明があり、その後各団体からの質問、要望が活発に飛び交いました。区の協働団体が集まる機会というのもなかなかないので、こんなに多くの方がさまざまな活動していることを知り、大変意義深い意見交換会でした。

アンケート記入用クリップボードの効果大！ 回収率が急上昇、追加購入を検討

前号で友の会イベントの来場者にアンケートの協力をお願いするため、記入用のクリップボード50冊を購入したことをお伝えしました。現在、このボードを利用しているのはCD・DVDコンサート委員会の主催するアンケートだけです。しかし2回ほど使用したところ、今まで3割くらいのアンケートの回収率が、なんと半数以上の方々の協力を得られました。友の会活動にとって参加者の皆さんの感想や希望を聞くのは非常に重要で、今後の活動の糧にもなります。ナイトシアターには上映映画によっては90名近くのファンが鑑賞に来られますので、友の会はさらに50冊程度の追加購入を検討しています。

“友の会へのお客様” —立教大学大学院の学生さん—

池田典子さん（立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科在学）という方から、修士論文作成の調査活動の一つとして「葛飾図書館友の会」を訪問したいという要請がきました。会としては対象がナイトシアター委員会、CD・DVDコンサート委員会という初めてのタイプなので快諾。

池田さんはナイトシアター（橋のない川第2部）や第63回コンサート（弦楽器の調べ）鑑賞と、終演後の片付けの様子などもじっくり見学されました。終了後、コンサート委員会の反省会にも参加されて、ワイワイガヤガヤとおしゃべり。委員会の活動状況や今後の課題も一緒になって話し合いました。はて、研究のほうはだいじょうぶかな？と思われるくらい楽しい時間でした。



こんな本みつけた こんな本よんだ

『記者ハンドブック』 共同通信社刊(2016年第13版) 読んで、冷や汗もの… 日本語表記の難しさ面白さが同居

点訳ボランティア活動の関係から『記者ハンドブック』という新聞用字用語集を初めて見た。1956年初版だからすでに60年以上の歴史があり、最新版は第13版。“日本で最も多くの記者が使っている、文章執筆のための必携書”だそうだ。“文字の使い方に迷ったら”、“知れば文章が変わる、日本語ルールブック”と謳った帯。紙は薄い767ページのシンプルな(?)体裁である。よく言われる6要素(5W1H)にもう一つのWが記者には必要、それはWORTH、すなわち値打ちが加わるという。しかし…。

これは辞書といってもいい。このハンドブックは(1)分かりやすくやさしい文章、言葉で書く、(2)できるだけ統一した基準を守る、という新聞記者の執筆のための大原則に基づいている。内容は常用漢字、現代仮名遣い、送り仮名の付け方を始め、誤りやすい語句、使ってはいけない差別・不快用語や日時、地名、人名・年齢、数字や外来語の書き方などがもう盛りだくさん。「ぢ」「じ」、「づ」「ず」の使い分け用例集まである。しかしなんとといってもメインは350ページあまりを占めている「用字用語集」の部分だろう。もちろん「あ」から「わ」までの用語の使い方がこと細かく、しかも新聞紙上でこれまで使われてきたと思しき使用例が羅列してある。さらに間違っ使用れやすい漢字には、ご丁寧にその右横のルビの位置に▲が。使い分けに注意という例や、誤って使いやすい語句には〔注〕として詳しい説明が書かれている親切さ。有名な“一姫二太郎”、“情けは人のためならず”や“他山の石”など、よくテレビのクイズ番組に出る問題などは予習していれば何とすることはない。この本は読みものとしても成立するが、根気がいる。時間もいる。しかし思い違いの多さや日本語表記の難しさ面白さ(英語は26文字のアルファベットの組み合わせだけ?!)を再確認できる内容だ。友の会の広報に携わる者としての力量不足を痛感した次第で、1900円(本体)出しても充分ペイするお買い得の本。この拙文に誤記がないことを祈るばかりだ。



☆☆☆☆☆ 「葛飾図書館友の会」で一緒に活動しませんか! ☆☆☆☆☆

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会いただいて、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか? 原則として第3土曜日の午後1時から3時まで中央図書館内で、また友の会の開催イベント時でも直接の入会受付を行っていますので、是非ご利用ください。年会費は一般会員1,000円、賛助会員は1口2,000円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を右記の口座に納入してください。図書館での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、29年度年会費をご記入下さい。また1口500円の寄付も大歓迎です。払込手数料は窓口では130円、ATMからでは80円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。

ゆうちょ銀行	口座番号	00100-7-392065
	口座名称	葛飾図書館友の会

入会届はHP (<http://katsutomo.jimdo.com/>) からダウンロードできます。

お問合わせ先: 中央図書館友の会担当者(打越さん、吉村さん、白井さん、川井さん) Tel 03-3607-9201

日本語の多種類、多様性は誇るべき文化資産ではないだろうか。と、子どものころから教えられ、筆、鉛筆、万年筆などでそのかたち、その美しさと意味をとことん教えられてきた。その多様性は地方の日常会話にもあったのに、明治の言葉も誕生したものだ。戦後という時代の分け目は日本の伝統的文化に大ナタを振るった。あの文字文化も当用漢字制限からこの常用漢字へと教育制度の変更によって徹底的に改正された。一方戦前生まれの古代人は抜け目なく、新聞、雑誌、書籍を通じて新しい表現に慣れ、いつの間にか新文化を習得したつもりだった。ある日、新聞広告で「漢字検定試験」というタイトルを発見。電話で聞くと1級は康熙字典丸覚えが条件というので遠慮し、2級を受けることにした。六〇歳、定年退職スタートのときのこと。▼受験に際し、問題集を求め、一読してこれは大変なことになっていると驚く。新漢字は我々から言わせるとほとんど略字で、とんでもないことになっている。眞は真になり、樂は楽となるなど。頭が切り替わったつもりだったが、問題集でテストすると間違だらけ。▼この切り替えには数十日も苦しんだ。試験は合格したが、世代が変わったことを再痛感。『明治は遠くなり、けり』と言われた時代があったが、『昭和は遠くなりけり』と感じることが多い今日この頃である。

(高橋広報委員)

色えんぴつ